

ご参加  
お待ちしております。



# 大安場史跡公園 1~3月の事業

大安場くん(史跡公園キャラクター)

## 江戸の遊具 泥メンコづくり

- 日時/1月7日(土)
- 時間/午前10時~12時
- 定員/20名
- 場所/ガイダンス施設
- 料金/140円
- 申込/要 12月7日~(定員次第締切り)
- 内容/粘土でメンコを作って遊びます。



## 人形劇

- 日時/2月19日(日)
- 時間/午後1時30分~3時
- 定員/100名
- 場所/ガイダンス施設
- 料金/無料
- 申込/要 1月19日~(定員次第締切り)
- 内容/赤いトマトによる公演を行います。



## グルメ体験

- 日時/1月14日(土)
- 時間/午前10時~12時
- 定員/30名
- 場所/ガイダンス施設
- 料金/無料
- 申込/要 12月14日~(定員次第締切り)
- 内容/武士の精進料理を作って試食します。



## 石碑の拓本実習

- 日時/3月18日(土)
- 時間/午前10時~12時
- 定員/15名
- 場所/ガイダンス施設ほか
- 料金/無料
- 申込/要 2月19日~(定員次第締切り)
- 内容/拓本の採り方を実習します。



## 草木染め

- 日時/1月29日(日)
- 時間/午前10時~12時
- 定員/20名
- 場所/ガイダンス施設
- 料金/2,000円
- 申込/要 1月5日~(定員次第締切り)
- 内容/季節の植物で生地を染色します。



## 歴史ウォーク

- 日時/3月25日(土)
- 時間/午前9時~12時
- 定員/30名
- 場所/田村町金屋
- 料金/無料
- 申込/要 2月25日~(定員次第締切り)
- 内容/歩いて歴史スポットを巡ります。



## 冬を観察する

- 日時/2月11日(土)
- 時間/午前10時~12時
- 定員/20名
- 場所/ガイダンス施設
- 料金/無料
- 申込/要 1月11日~(定員次第締切り)
- 内容/公園を散策して冬の風物を観察します。



## 昔ばなし

- 日時/3月26日(日)
- 時間/午後1時30分~3時
- 定員/60名
- 場所/ガイダンス施設
- 料金/無料
- 申込/要 2月26日~(定員次第締切り)
- 内容/語り部の昔ばなしに耳をかたむけます。



## 大安場史跡公園管理センター

(公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)

住所:福島県郡山市田村町大善寺字大安場160番地  
 電話:024-965-1088 FAX:024-965-1090  
 Mail:oyasuba@bunka-manabi.or.jp  
 休館日:月曜日(月曜日が祝日の時は次の休みでない日)  
 ※公園は年中無休です。

ウェブサイトも  
チェック!

大安場史跡公園 検索



おおやすばしせきこうえん  
大安場史跡公園

vol.  
31

# まるさんかくしかく

タイトルはまるい石劔、さんかくは古墳の前方部しかくは後方を表現しています。

## 十二支の考古学 酉

あけましておめでとうございます。

平成29年の始まりです。  
 ご承知のように、今年の干支は酉です。そこで1月5日から2月5日まで、酉に因んだパネル展示を行なっています。



「酉」という文字は、方位では西、時間では午前6時ごろの意味としても使われます。

十二支の酉は、特に鶏を意味していますので、早朝に鳴く鳥の代名詞である鶏を表すのに相応しい言葉といえるでしょう。いまでこそ鶏を飼っている家は少ないですが、鶏は犬とならび、日本人にとって

最も親しみのある家畜の1つです。

福岡県行橋市の下稗田遺跡では、約2,300年前の弥生時代中期の鶏を模った土製品が見つかります。今のところ、これが最も古い時期の鶏に因む遺物とされています。一方で、家畜としての鶏そのものは、稲作にともなう技術や文物などと一緒に、弥生時代の初めごろに伝わったと考えられています。

鶏の形をした遺物は、弥生時代の終りごろから古墳時代の初めごろにかけての時期に、その数が多くなります。古代の人々は、いったい何を期待して、鶏の造形物を作ったのでしょうか。その謎を解くために、まずは鶏がどのような鳥であったのかをみてみましょう。

### 鶏ってどんな鳥? 一能力と神聖性一

ニワトリの漢字は正式には「鶏」です。しかし、「鶏」をニワトリと読むことは難しく、当て字と言えます。ニワトリの古名は「かけ」で、鶏の鳴き声から命名されたようです。この「かけ」の枕詞に「にはつとり」という言葉があり、「にはつとり」から「にわとり」に変化したと考えられています。「にはつとり」に漢字をあてると「庭つ鳥」で、鶏が庭に居る鳥=家畜であったことがわかります。

鶏の起源は東南アジアにあるとされ、弥生時代に日本へ伝わったときには既に家畜となっていました。食用にされることは少なく、早朝に鳴く声を求めたり、鶏どうしを闘わせる闘鶏のために

かけ、かけ  
(コケコッコ)



津古生掛古墳出土土鶏形容器(写真:小郡市教育委員会提供)



しいく飼育されたりしたと考えられています。早朝に鳴くことから、暗闇の夜を終わらせて明るい朝を招く鳥とみなされ、勇猛に闘う姿に、邪悪なものを退ける力を感じ取ったようです。そのため鶏は、特別な鳥と認識され、埴輪をはじめとした文物に造形されるようになったと考えられます。

にわとり そうけい 鶏の造形 —容器と埴輪—

鶏の形をした遺物は、弥生時代の終りごろから古墳時代の初めごろにかけて、その数が多くなります。この時期の遺物は、容器を鶏の形にしたものが多いようです。その代表的な例が、右上の写真に上げた福岡県小郡市の津古生掛古墳から出土した鶏形の容器です。古墳時代前期の初めごろにあたる3世紀中ごろのものです。立派な鶏冠と肉垂が表現されていることから、雄の鶏であるとわかります。背中に容器の口があるにもかかわらず、底には孔が空いていて、実用の容器としては使えない構造となっています。古墳専用の特別な器として制作されたと考えられます。

その後、形象埴輪の1つとして鶏形埴輪が登場します。鶏形埴輪は、動物を模った埴輪の中では、最も早い段階に現れたものの1つです。鶏という鳥が、それだけ特別な存在と認識されていた証だと考えられます。現在のところ、最も古い時期の鶏形埴輪は、古墳時代前期の4世紀後半に造られた京都府向日市の寺戸大塚古墳のものようです。右下の写真にある奈良県桜井市の纏向遺跡から出土した古墳時代前期の4世紀の鶏形埴輪は、立派な鶏冠と肉垂が表現された雄の鶏です。止まり木につかまる様子が再現されているのが特徴です。鶏形埴輪は、埴輪そのものが作られなくなる古墳時代後期の6世紀後半まで作られ続けました。

奈良県天理市にある古墳時代前期の3世紀後半に造られた東殿塚古墳からは、船の描かれた円筒埴輪が出土しました。右頁上の写真に見られる



津古生掛古墳出土鶏形容器 (写真:小郡市教育委員会提供)



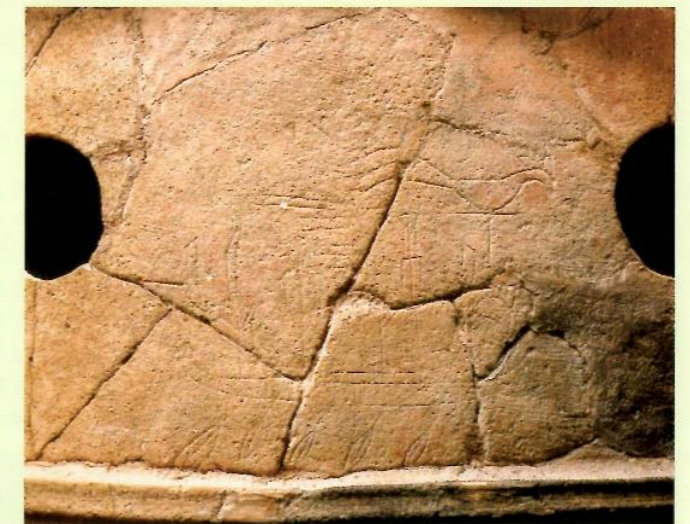
纏向遺跡出土鶏形埴輪 (写真:桜井市教育委員会提供)

ように、船は2艘描かれており、その2艘とも船先には鳥が表現されています。そのうち上段の船に描かれた鳥は、鶏冠と立派な尾羽の表現から、雄の鶏であるとわかります。古墳に葬られた人物を、死者の国へと導くための役割を果たしているようにも感じられます。特別な能力を持つ神聖な鳥としての鶏の性格を、よく表した造形です。

どれもよくできてるなあ~!



大安場くん (史跡公園キャラクター)



東殿塚古墳出土円筒埴輪 (写真:天理市教育委員会提供)

にわとり てんのうだん こふん 福島の鶏形埴輪 —本宮市天王壇古墳—

福島の古墳からも、鶏形埴輪は出土しています。その代表的な例が、本宮市にある天王壇古墳です。天王壇古墳は、古墳時代中期の5世紀後半に造られた古墳で、直径が38メートルの中心部分に、幅5メートル、長さ3メートルの張り出し部が付く形をしています。上から見た姿が帆立貝のような形をしていることから、帆立貝形古墳と呼んでいます。

天王壇古墳からは、たくさんの埴輪が出土しています。東北地方の埴輪を考える上で重要な古墳の1つで、円筒埴輪・人物埴輪・動物埴輪・器材埴輪という具合に、埴輪の種類は多様です。鳥の形をした埴輪は3点あり、1点が水鳥、2点が鶏です。



天王壇古墳出土鶏形埴輪 (写真:本宮市立歴史民俗資料館提供)



2点の鶏形埴輪は、いずれも鶏冠と肉垂の表現があり、雄であるとわかります。ただし鶏の表現は、先に紹介した津古生掛古墳や纏向遺跡のものとは比べて素朴であり、制作者の技量の差が感じられます。

鶏を埴輪などに造形する行為は、九州から東北まで、いずれの地域でも認められます。鶏を特別視する認識が、人々に共有されていたことがわかります。鶏はとても身近な鳥であるとともに、神聖な存在でもあったのです。